

書 評

.....

Roger S. Pressman (著)
西 康晴, 榊原 彰, 内藤裕史 (監訳)
古沢聡子, 正木めぐみ, 関口 梢 (翻訳)

実践ソフトウェアエンジニアリング (原書第6版対応) —ソフトウェアプロフェッショナルのた めの基本知識—

日科技連出版社, 688p., 7,980円(税込)
ISBN4-8171-6148-5

最近、国語辞典として人気のある「新明解国語辞典」が新版になった。辞典の世界では、移り変わる日本語や新たに加わる単語を取り込むために改版を重ねることが多い。これと同じように、海外では版を重ねながら、新しい知見を取り込んで長期間にわたって発行される専門書がある。ソフトウェア工学分野の知見を盛り込んだ Roger S. Pressman の “Software Engineering” もそういった本の1つで、このたび、版を重ねて第6版となった。本書は、その最新の第6版の翻訳である。

同じ日科技連出版社から発行されていた「実践ソフトウェア工学」(原著第4版)の「監訳者のことば」によると原著の初版が1982年とのことだから、今年で23年にわたって改訂されてきていることになる。そのため、この第4版と最新版の目次を比べると、この間のこの分野の変遷が垣間見られて面白い。

参考までに、第6版の目次をあげておこう。

第6版目次

ソフトウェアとソフトウェアエンジニアリング

第1部 ソフトウェアプロセス

規範的なプロセスモデル/アジャイル開発

第2部 ソフトウェアエンジニアリングの実践

システムエンジニアリング/要求エンジニアリング/デザインエンジニアリング/アーキテクチャ設計/コンポーネントレベル設計/ユーザインターフェイス設計/ソフトウェアテスト戦略/ソフトウェアテスト技術/成果物に関するソフトウェアメトリクス

第3部 Webエンジニアリングの適用

Webアプリケーションのための分析モデリング/ Webアプリケーションのための設計モデリング

第4部 ソフトウェアプロジェクトの管理

プロジェクトマネジメントの概念/プロセスとプロジェクトのメトリクス/ソフトウェアプロジェクトの見積もり/ソフトウェアプロジェクトのスケジューリング/リスクマネジメント/品質マネジメント/変更管理

第5部 ソフトウェアエンジニアリングの先進トピック

フォーマルメソッド/クリーンルーム開発/コンポーネントベース・ソフトウェアエンジニアリング/リエンジニアリング/進むべき道

これと第4版の目次とを比較すると、時代の移り変わりが感じられる。たとえば、新しい章としてアジャイル開発が付け加わっている一方で、以前は個別に章が設けられていたオブジェクト指向は、全体の記述の中に取り込まれ、一般的に取り扱われるようになっている。また、Webシステムに関する記述が充実した点もこの版の特徴である。Webアプリケーションが一時ほど脚光を浴びていない現状ではあるが、反対にアプリケーションの形態として定着しており、その点では、現実に即した記述追加であるとも言えるだろう。先進トピックとして、コンポーネントベース・ソフトウェアエンジニアリングについて体系的にまとめられているのもほかにはない特徴である。

なお、今回の翻訳では、「ソフトウェア工学」というタイトルが「ソフトウェアエンジニアリング」と改められたが、監訳者のあとがきによれば、これも細かい単語のニュアンスへのこだわりの結果らしい。

全体の記述のレベルは深いとは言えないが、取り扱っている領域は必要にして十分な広さを持っている。特に、実務として、プログラムやシステムの開発に従事しようとした場合、現場のスキルだけでは袋小路に入り込むことが多い。このような広範囲の知識をきちんと体系的に身に付けた上で、実務に従事できれば、鬼に金棒ということになるだろう。ぜひ、学生や実務者に一度読んでもらいたい本である。

(大野 晋/(株)SKサポートサービス)

